

さぬきうどん発電

うどん県・香川の企業



おいしい話

今秋にも販売

産業用機械などを製造する「ちよだ製作所」(高松市)が、香川名物さぬきうどんなどの食品廃棄物から発生させたメタンガスを使い、バイオマス発電に乗り出す。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度に基づき、今秋にも四国電力への売電を始め、年間約650万円の収入を見込む。ちよだ製作所は2010年、香川県などの支援を受

香川名物のさぬきうどん。究極のリサイクル発電で新たなエネルギーとなるか

メタンガス発生させバイオマス

残ったうどんを酵母菌で発酵させるとエタノールができる。この際に出る残りかすに水を加え、メタン菌の入った装置で野菜くずを混ぜて発酵させるとメタンガスが発生。このガスを燃焼させて発電するという一連の設備を自社敷地に建設中だ。

固定価格買い取り制度が始まってから、大規模太陽光発電所の建設が全国で相次いでいるが、バイオマス発電の普及は進んでいない。経済産業省によると、メタンガスを使ったバイオマス発電の認定件数は12年11月末時点で、北海道と新潟県の計8件だけだ。池津社長は「太陽光や風力と違い、バイオマスは安定して発電できる理想的なエネルギー源だ」と話す。自社内での運用が軌道に乗れば、食品業者らに設備を売り込み、バイオマス発電の普及を狙う考えだ。

主なアイデア発電

▼**振動力発電** 人が歩く振動や車が走る際に起こる振動を利用。首都高の一部などでは発電床が取り付けられ、照明や電光掲示板に必要な電力を自家発電。東京駅でも「床発電」が試験的に行われた。

▼**チューブ発電** 長さ10㍍、直径1㍍の「熱発電チューブ」に温水を流すことでチューブ自体が発電。組み合わせ方ではLED電球を点灯。

▼**風(たこ)発電** イタリアで、約61平方㍍の巨大風を利用した発電を研究。約800㍍まで上げると、地上の4倍の風を受けることができ、その風力を利用。